

編集後記

2024年度『青山地球社会共生論集 第9号』を年度内に無事刊行することができました。本号の編集に携わった者として、貴重な研究・教育成果を投稿・校正してくださった執筆者の皆様、そしてお忙しい中でも査読を担当してくださった正会員の皆様に心より感謝申し上げます。また、刊行までの事務手続きを支えてくださった地球社会共生学会事務所の森田様、和智様、そして校正・印刷を丁寧に進めてくださった株式会社双文社の濱野様にも深く御礼申し上げます。

本学会は創設10周年を迎えました。それに伴い、本号より査読が必要な従来の「論説」と「研究ノート」に加え、新たに査読不要の「研究・教育報告」というカテゴリーを設けました。これにより、学会関係者による投稿をさらに促進し、論集の内容が学会全体の活動をより的確に反映するようになることを目指しています。そして、地球社会共生学に関連する多様な研究・教育活動が学会内外から自由に共有されることで、分野ごとに分かれがちな研究に対する相互理解が深まり、会員間の連携がより一層強化されることを期待しています。

また、本号では、コラボレーション領域を専門とする正会員の方々に、それぞれの立場から地球社会共生について論じていただき、小特集としてまとめさせていただきました。この取り組みは、地球社会共生学をより明確で分かりやすい形へと発展させていくための大きな一歩となると考えています。今後、他の専門領域においても同様の試みがこれまで以上に進展し、専門領域間の具体的な協働へと繋がっていくことを期待しております。

加えて、本年度をもって本学会を退会される桑島京子正会員と福原直樹正会員がこれまでの研究成果をご執筆くださいました。長年にわたるご貢献に深く感謝するとともに、今後ますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

最後になりますが、本学会が、神と人ともに仕え社会に貢献する「地の塩、世の光」としての教育研究共同体である本学の関係団体として、人類への奉仕をめざす自由で幅広い学問研究の推進に今後も寄与し続けることを願い、本編集後記を締めくくらせていただきます。(史)